

2024

紙パックリサイクル 年次報告書

Paper Carton Recycling
Annual Report



捨てるより **リサイクル** が

気持ちいい。



全国牛乳容器環境協議会

発行にあたって

日頃より全国牛乳容器環境協議会(容環協)の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に変更され、行動制限や外出自粛が緩和されたことに伴い、以前の生活へと戻りつつあります。感染自体がなくなった訳ではありませんが、容環協でも出前授業、リサイクル講習会、地域環境イベントへの出展などの活動を再開しました。

一方で、社会情勢は円安の進行、食料品を中心とした値上げ、猛暑による酪農や農業への影響、ウクライナやパレスチナでの紛争を端緒とした飼料価格やエネルギー費の高騰など、私達を取り巻く環境は不透明です。消費者の生活防衛意識は強く、牛乳や乳製品の市場も縮小し、当然ながら、容環協の活動や紙パックのリサイクル活動にも影響を及ぼしています。また近年、SDGsへの取組みや気候変動を背景とした、脱炭素社会・循環型社会への移行に多くの自治体や企業が取り組み、これらの話題をメディアが取り上げない日はない状況となっています。猛暑、大雨、乾燥や森林火災などの気象変動に起因する災害も身近な問題となっており、環境課題に対する感度と機運が高まっていると感じています。

このような状況の中、昨年度より、容環協の活動については「もったいないからリサイクル」といった視点に「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取組み」といったテーマを加え、これを2023年度の活動にも反映させています。本年度、関東圏と関西圏で実施した意識調査の結果を見ますと、1年以内に紙パックの回収やリサイクルを始めた方々の行動のきっかけは、出前授業、リサイクル講習会、環境イベントなどの対面活動に加えて、インターネットを始めた電子媒体によるものも多いことが判明しています。従来から取り組んでいる対面での活動に加えて、WebやSNSなどの電子媒体による情報発信にも積極的に取り組み、これらを両輪として、紙パックリサイクル活動の更なる推進をしたいと考えています。

環境課題やSDGsへの関心が高まっている一方で、紙パックの回収やリサイクルについては課題が多い状況です。ここ10年程漸減傾向にあった回収率は2021年度に底を打ったようにも思われますが、製造過程で発生する損紙や古紙を含んでも4割程度、製品として出荷された容器包装に限れば3割程度しか回収されていません。紙パックは針葉樹パルプを主体とした強度の高い紙と、内外面をラミネートしているポリエチレン樹脂から構成される複合素材であり、適切に回収し、素材を分離し、再生することで、さまざまな製品へリサイクルできる「資源」です。飲用後の紙パックは、日本中のどこにでもある「都市森林」や「都市油田」であることをステークホルダーの皆さまにお伝えし、



全国牛乳容器環境協議会
会長
柳田 恭彦

回収率の向上とリサイクルシステムの構築につなげたいと考えています。

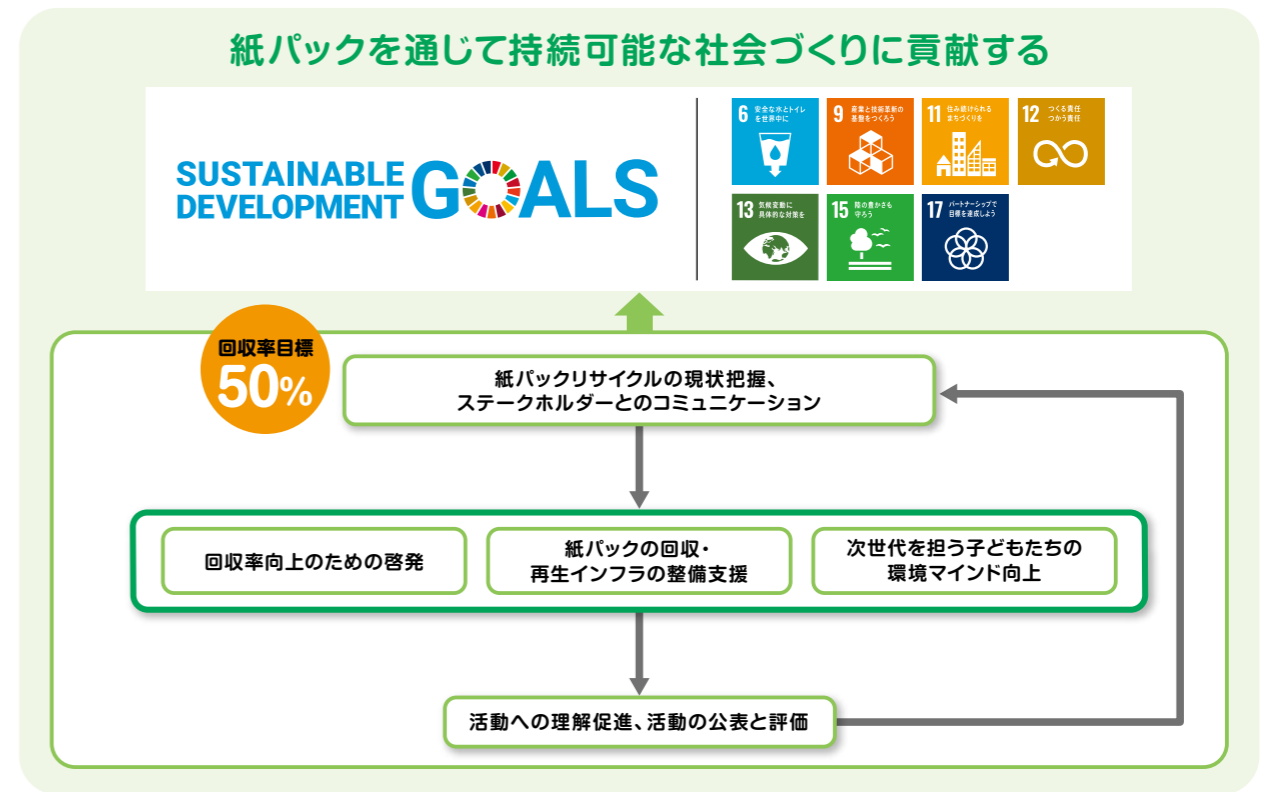
「紙パックの回収率50%を目標とする諸活動を通して持続可能な社会づくりに貢献すること」を目的とした「プラン2025／飲料用紙パックリサイクル行動計画」は、2021年度の策定から2023年度で3年目を迎えました。プラン2025では、(1)紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション、(2)回収率向上のための啓発、(3)紙パックの回収・再生インフラの整備支援、(4)次世代を担う子供たちの環境マインド向上、(5)活動への理解促進、活動の公表と評価、の5つの課題を掲げています。2023年度も課題達成に向けて、行動計画を立案し、産官学での連携や組織・業界横断的な取組みを進めてきました。また、取組成果を客観的、数値的に検証し、振り返りも実施し、紙パックの回収率50%を目指しています。

以上、ご紹介した内容を中心として、1年間の活動内容を総括した、「2024紙パックリサイクル年次報告書」を作成しました。ぜひお目通し頂き、ご意見をお寄せ頂ければ幸いです。多くの皆さまからのご意見が、紙パック回収率の向上、リサイクルの推進、資源の有効活用につながるものと考えています。

紙パックの資源循環は、紙パック飲料をご利用頂いているお客様と、回収や再生、製造や流通に携わるさまざまな皆さまのご協力があって実現するものです。今後とも、紙パック回収とリサイクルへのご協力を宜しくお願い申し上げます。また、会員や賛助会員の皆さまにおかれましては、今迄にも増して更なるご協力を宜しくお願い申し上げます。

2024年1月

プラン 2025 飲料用紙パック リサイクル行動計画



CONTENTS

プラン 2025 飲料用紙パック
リサイクル行動計画 ①

活動トピックス

プラン2025／3年目の取組状況 ②

業務用領域の取組み ③

飲料用紙パックリサイクル行動調査 ④

海外調査 ⑤

リサイクル促進地域会議 ⑥

リサイクル促進意見交換会 ⑦

紙パックリサイクル講習会／イベント・出展 ⑧

牛乳パックリサイクル出前授業 ⑩

その他の広告・啓発活動 ⑪

エコプロ2023 ⑫

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール ⑬

2023年度状況報告

小売事業者のリサイクル状況 ⑱

福祉施設のリサイクル状況 ⑲

市町村回収・集団回収の状況 ⑳

学校のリサイクル状況 ㉒

製紙メーカーのリサイクル状況 ㉓

紙パックのリサイクル学

紙パックを取り巻くダブル循環^{ループ} ㉔

全国牛乳容器環境協議会の概要

あゆみ ㉔

容環協の発行物 ㉘

会員一覧 ㉙

活動報告ダイジェスト

2022年度 紙パック回収率 ⑭

2022年度 紙パックマテリアルフロー ⑮



プラン「2025」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

容環協では、乳業メーカーと飲料用紙容器メーカーの会員企業から選出された専門委員によって、「総務」「広報」「イベント」「支部組織」の4つの委員会を組織し、それぞれ月に1回以上の頻度で会議を行ってさまざまな活動に取り組んでいます。また、各委員会に所属する専門委員から構成される「企画運営委員会」を月に1回開催し、組織横断的な情報共有と各課題の進捗確認を行っています。プラン2025で掲げている5つの体系にかかわる2023年の主な活動概況は以下の通りです。

(1)紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

紙パックリサイクルにかかわる現状を把握するため、基本調査、地域毎の回収力分析、古紙業者の紙パック取扱い意向調査を行いました。他団体とも連携し、紙パックとして収集された資源物への異物の混入量や雑がみに混在する紙パックの量などの組成調査も行っています。容環協が取り組んでいるさまざまな施策を評価し、改善に向けた方向性の示唆を得るため、関東の1都6県、関西の2府4県の方々を対象としてアンケート調査を実施しました。コロナ感染症の位置づけ変更に伴い、古紙原料問屋や再生紙メーカーとの意見交換会、市民の方々に向けた講習会や地域イベントへの出展なども再開しています。コロナ禍や台風禍で中断していた紙パックリサイクル促進地域会議を千葉県で開催し、関連省庁や県内の自治体を始めとしたステークホルダーの方々にご参加頂き、課題と情報の共有を行いました。9月には北米視察を行い、育苗場、森林管理施設、紙パックの原紙工場、リサイクル施設などの視察を行いました。

(2)回収率向上のための啓発

日本経済新聞社が主催する日本最大級の環境展エコプロへ出展すると共に、全国の自治体、諸団体、会員企業と連携し、リサイクル講習会や地域イベントの開催や支援を行いました。啓発の軸を「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取組み」といったテーマに置き、この理念をパネル、冊子、各種ノベルティ、ホームページ(HP)などでお伝えしています。情報化社会への対応として、HPを充実させ、新しい情報を都度掲載すると共に、セキュリティ向上も図りました。Webを活用したタイアップ広告についてはこれまでに計7回実施し、PV数は合計で約200万となり、Web広告からHPへの誘導にもつなげています。業務用領域における紙パック回収

についても(一社)日本サステナブル・レストラン協会と連携し、関東、中部、関西地域で取組みを進めています。自治体指定のごみ袋への啓発広告の掲載についても継続しています。

(3)紙パックの回収・再生インフラの整備支援

地域毎の回収力分析調査によって各地域や自治体が抱えている課題を捉えると共に、全国製紙原料商工組合連合会にご協力頂き、全国の市区町村別の紙パックの回収区分や紙パックを古紙回収する業者の情報を調査し、「古紙原料問屋調査報告書」としてまとめています。お問い合わせがあった時には近隣の古紙問屋などを紹介しています。役場、公民館、学校、福祉施設、事業所、商業施設や店舗などの身近なところに回収拠点を設けて頂くため、回収ボックスの無償提供も継続しており、2023年には約1,000個を提供しました。ラミネートされているポリエチレンのマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルについての情報収集や試作、回収拠点の可視化に向けた取組みも進めています。

(4)次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

紙パックリサイクルの意義、資源循環の大切さ、紙パックや学乳パックの資源としての価値などを子供たちに伝え、理解してもらうため、行政や市民団体とも連携し、出前授業やワークショップを行っています。森林資源の活用、SDGs、地球温暖化などの環境面の視点から課題を投げかけ、紙すきを通じて紙パックが別のものに生まれ変わる体験してもらい、自分たちができることは何だろうか?といったことを考えてもらうよう、心がけています。全児童と教職員が紙パックの回収やリサイクルを行っている千葉県の小学校の取組みなども視察頂いています。今年度も紙パックを使ったものづくりを通して子供たちの気付きや理解に貢献したいとの思いから、省庁、公的機関、教育機関などに後援頂き、「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」を開催し、全国から3,500以上の作品が寄せられました。一次審査、最終審査を経て受賞作品を選出し、12月に東京ビッグサイトで開催されたエコプロで展示すると共に、作品を制作した児童とご家族を招き、表彰式を行いました。

(5)活動への理解促進、活動の公表と評価

以上、紹介しました容環協の1年間の活動トピックスを総括し、年次報告書としてまとめ、さまざまなステークホルダーの方々へ情報発信しています。また、HPでは、年次報告書、基本調査報告書、さまざまな啓発資料などについても電子公開しています。年度末には多くのステークホルダーの方々とも意見を交換する場を設けています。今後とも、客観的、数値的な視点で自らの活動や成果を振り返り、課題や問題点を抽出し、次年度の活動へ反映させるよう努めていきます。

一般社団法人 日本サステナブル・レストラン協会 (SRAジャパン)と連携した 取組みを継続しています。

【SRAジャパンとの連携活動】

容環協は業務用領域での紙パック回収について、2023年度もSRAジャパンと連携した取組みを進めています。

今年で2年目となる「FOOD MADE GOOD紙パック50アクション」キャンペーンを7月31日から8月30日に実施しました。このキャンペーンは、飲食店における紙パックの回収啓発と回収率の向上、回収ルートの設定と定着を目指したものです。今年度の参加エリアは、兵庫県芦屋市、大阪府東大阪市、東京都練馬区に加え、同千代田区、神奈川県厚木市、同茅ヶ崎市、愛知県名古屋市の7つの市区に拡大しました。キャンペーン期間中は、各エリアのSRAジャパン加盟店に紙パック回収ボックスを設置し、近隣の飲食店や地域住民に紙パックリサイクルのリーフレットを配布し、リサイクルの重要性を伝え、回収の実証実験を実施しました。練馬区、厚木市、茅ヶ崎市では地域の環境イベントやマルシェにも出展し、この結果、キャンペーン期間中の紙パックの回収枚数は5,672枚となり、非常に多くの方々に紙パックを持参頂きました。また、SRAジャパンのFacebook、Instagram、X、YouTubeといったSNSでは、キャンペーンの状況を発信し続けて頂きました。行政との連携も進めており、厚木市、茅ヶ崎市、芦屋市では市長や市議と面談し、事業系紙パックの回収についての課題の共有と回収率の改善に向けた理解と協力を求めました。

10月には、SRAジャパンが主催するウェビナーに、厚木市で紙パックの回収を進めている飲食店、神奈川県古紙問屋とともに、伊藤常務理事が登壇し、紙パックリサイクルの現状と今後の展望について講演を行い、講演のようすはYouTubeチャンネルで公開されました。

11月には、加盟レストランのサステナビリティを評価して表彰する式典である「FOOD MADE GOOD Japan Awards 2023」に協賛し、容環協の冠賞として「BEST

リサイクル賞」を設けました。受賞者としては、紙パック回収についての積極的な取組み、商業施設や自治体や子供会などの地域への強力な働きかけ、自らリサイクラーへ持ち込む行動力、リサイクラーと協力したウェビナー登壇、市議や市長への働きかけを通じた行政へのアプローチ、イベントでの厚木市ブースへの回収ボックス設置などの強力な推進性を評価し、「厚木エリア」を選出しました。アワード授賞式当日はブース出展を行い、飲食店やサステナビリティ関係者へ、紙パック回収啓発のリーフレットを配布しました。「BESTリサイクル賞」をきっかけに他の地域へも成功事例を共有することができ、今後の紙パックの回収率向上に向けた取組みの広がりが期待されます。



練馬区の回収イベント

茅ヶ崎夏祭り回収イベント



厚木市役所での市長や市議との面談



名古屋市の店舗での回収

BESTリサイクル賞表彰式



飲料用紙パックリサイクル行動調査

海外調査

飲料用紙パックのリサイクルに関するインターネット調査を関東と関西で行いました。

【2023年度飲料用紙パックのリサイクル行動調査】

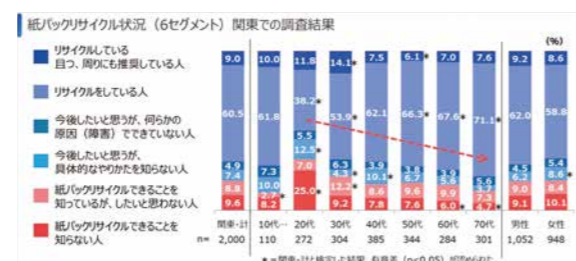
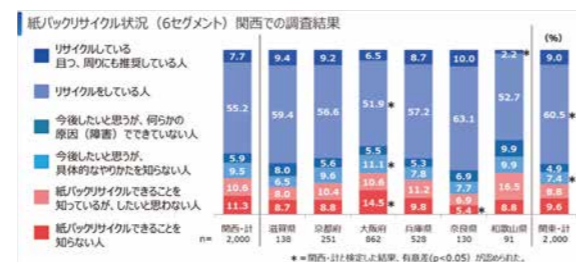
飲料用紙パックリサイクルの消費者セグメント構造(行動パターン)を把握すると共に、容環協が回収率向上に向けて取り組んでいるさまざまな施策を評価し、改善に向けた方向性の示唆を得るために、関東の1都6県(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬)、関西の2府4県(大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山)の15~79歳の男女計4,000人(関東2,000人、関西2,000人)の方々を対象として、インターネット調査を行いました。今回の調査を通じて、関東と関西ならびに各都府県での紙パックリサイクル行動の違い、年代別のリサイクル行動の違い、何がリサイクルを始めるきっかけになったかが、ある程度、明らかになりました。

関東では約7割、関西では約6割の方が「リサイクルをしている」と回答し、関西の方がやや比率が低い傾向がありました。また、年代が高くなるにつれてリサイクルをしている人の比率が高くなる傾向でした。性別によるリサイクル行動に大きな違いはありませんでした。紙パックリサイクルのやり方を知らない人は、関東、関西とも「紙パックを出す前の処理方法」より「居住エリアの具体的な回収先」を知らない人が多い傾向にあり、容環協では、行政やスーパーマーケットなどで回収を行っていること、自治体のHPや小売業のHPにも回収先が掲載されていること、などの情報を継続して提供していきたいと考えています。また、紙パックリサイクルをしていることを知らない人に、紙パックリサイクルの方法や意義などの資料を提示したところ、多くの方から「出そう」「出してもいい」との回答を頂きました。その理由は、関東、関西とも「環境のためになることがわかった」がトップとなり、関西では「燃やせるゴミが減らせる」との回答も目立ちました。容環協では、出前授業、リサイクル講習会、地域の環境イベントなどを通じて「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取り組み」であることをお伝えすると共に、地域による違いを考慮し、それぞれの地域の特性を

考えた啓発活動を心がけたいと思います。紙パックリサイクルを始めたきっかけについては、以前からしていた方と、直近1年以内に始めた方との間には大きな相違が認められました。関東、関西ともに、以前からしていた方については「スーパーやお店で回収していた」「自治体でやっていた」との回答が大半ですが、直近1年以内に始めた方については「インターネット」「SNS」「動画サイト」などの比率もかなり高くなりました。容環協では、出前授業やリサイクル講習会などの対面での啓発活動に加えて、Web記事の掲載や動画の配信などの電子媒体を通じた非対面での啓発活動にも積極的に取り組み、HPについても更に充実させようと考えています。

今後もこのような調査を定期的実施し、客観的、数値的な視点で課題や問題点を抽出し、今後の活動に反映していきます。今回の調査の詳細をHPの「インターネットによるアンケート調査」に掲載しています。ぜひ、ご確認下さい。

調査機関:株式会社クロス・マーケティング



北米を訪問し、日本との違いや現地の取組みを確認でき、大変有意義な機会になりました。

【北米視察】9月11日~15日

第7回目となる今回の海外調査では、シアトルからサンフランシスコまでのアメリカの北西部を訪問し、紙パックの原料となる針葉樹の採種や育苗工程の確認、森林の管理状況の学習、原紙製造工場や資源回収施設の視察などを行いました。

採種や育苗工程の確認については、ウェアハウザー社が運営するロチェスター採種園を訪問しました。ここでは、交配による針葉樹の品種改良に取り組み、約10年という長い年月をかけて種作りを行っています。現在は第3世代の品種を栽培・販売しており、優性遺伝(成長が早い・真っすぐ成長する・環境適応能力が高いなど)を活用した効率的な品種改良と植林活動が行われていました。近年は森林火災も多く発生していることから、環境に強く、成長が早い樹木を計画的に植林することによって安定した森林資源の供給に取り組む生の現場を見ることができました。この取組みはセントヘレンズ森林学習センターでも確認することができました。



育苗施設の様子(第3世代) セントヘレンズ森林学習センター

原紙製造工場については、日本ダイナウェーブパッカーズ社(以下、NDP社)を訪問しました。NDP社では、使用するチップの約30%をウェアハウザー社から供給を受けており、パルプ化から抄紙工程、エクストルーダーによるラミネート工程までを行っています。原紙は3層抄きで、プレス工程及び乾燥工程を経て、適切な水分値になるよう抄造されていました。抄造後は1本が25トンと非常に大きなロールを小分けし、紙の内外面にポリエチレンや

バリア層をラミネートして、液体食品用紙容器の原紙が完成します。また、ライフサイクルアセスメント(LCA)の点からも年々改善がなされており、設備増強によって使用する蒸気や電力量は増加しているものの、効率の良い設備の導入によって、エネルギー効率の向上や再利用、化石燃料の使用低減に取り組んでいるとのことでした。



NDP社でのミーティングの様子

資源回収施設については、カートンカウンシル(アメリカの紙パックリサイクル推進団体)の支援を受けているカリフォルニア州サンノゼ市にあるGreen Wasteを訪問しました。この施設はサンフランシスコ湾一帯の大型施設で回収されたリサイクル可能なごみを取り扱っており、約20%が紙類(そのうちメインは段ボール)とのことです。日本では回収前に分別を行います、米国では一括回収して分別する方式であり、この施設では分別機や作業員による手選別により、約15種類(段ボール、印刷古紙、紙パック、ポリエチレン、ポリプロピレン、PET、プラスチックフィルム、アルミ、スチール、ガラスなど)にも細かく分別していることにも大変驚きました。処理能力が高いことから(回収後48時間以内に分別完了)、施設内の異臭や害虫はそれほど酷くない印象でしたが、作業には大変手間がかかっており、事前に分別する日本方式のメリットを大いに感じました。



資源回収施設(Green Waste)

紙パックリサイクル講習会／イベント・出展



狛江市のエコパートナー養成講座にてセミナーを開催しました。

【狛江市エコパートナー養成講座セミナー】2023年8月19日

狛江市は、「2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティを目指す」ことを表明すると共に、狛江市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画を策定し、産官学民が連携してさまざまな取組みを行っています。今回、市民の方々に向けたエコパートナー養成講座として、「紙パックリサイクルでできるSDGsの課題解決への貢献」とのタイトルで、セミナーを開催しました。

最初に、容環協の概要や組織、容器包装リサイクル法が制定された背景、現在の廃棄物の実態、消費者・自治体・事業者が担うべき役割などを、イラストを交えたスライドで紹介した後、昨年度の調査結果に基づいた紙パックリサイクルの状況を説明しました。次に、SDGsの視点で制作したパネルに沿って、森林管理の重要性、紙パックの特徴、回収と分別のルール、再生紙工場の工程と設備、紙パックのリサイクルでできるSDGsの課題解決への貢献などを紹介しました。セミナーの後半では、再生紙工場の設備や工程を紹介した動画と、全児童が学乳パックの回収とリサイクルに取り組んでいる千葉県流山市立おおたかの森小学校の動画を上映し、紙パックリサイクルや資源循環についての具体的なイメージを持って頂きました。

セミナーの後には「日本の木材は使っていないのですか?」「狛江市での紙パック回収はどうなっているのですか?」「口栓付きの紙パックはどうしたら良いですか?」「紙パック製品の製造や販売量が減っていることが回収率低下の原因になっている可能性はありませんか?」など、非常に多くの質問が上がり、参加頂いた方々の意識の高さを感じることができたセミナーとなりました。



会場でのセミナーの様子

大阪府柏原市と連携し、3つのイベントに出展しました。

【CHEER FAMILY☆フェスタ☆】2023年3月19日

CHEER FAMILY☆フェスタ☆は、一般社団法人チアファミリーが主催し、柏原市、柏原市教育委員会、藤井寺市、藤井寺市教育委員会が後援するファミリーイベントです。エリアの一角にテントを設置し、パネルの掲示、リサイクルした紙パックから製造された紙紐やトイレトペーパーの展示、来場者のリサイクル状況や意識のアンケート調査、各種啓発冊子の配布などを行いました。

【アス・アースフェス】2023年4月22日

アス・アースフェスは、アス・アースフェス運営委員会が主催し、柏原市と柏原市教育委員会が後援して行われた「明日の地球を親子で体験!」をキャッチフレーズとしたイベントです。資源循環ステーションの隣にブースを設け、会場での飲食後のごみをステーションに出しに来た方々に対して、パネルやチップ・パルプ・ポリエチレン・三層構造紙パック・手開きした紙パックなどの展示、リサイクルされた紙パックから製造されたトイレトペーパーの配布などを行いました。

【柏原市環境フェア】2023年11月4日

市役所の駐車場と大和川河川敷緑地公園で柏原市民総合フェスティバルが開催され、この一角で29回目となる環境フェアが同時開催されました。同市内に活動拠点を置く「かしわ環境会議」が設置したブースの一角で、パネルやリサイクルされた紙パックから製造された再生品の掲示、啓発冊子やノベルティの配布などを行いました。配布したポケットティッシュの数は300を超え、大盛況なイベントでした。

上記3つのイベントへの出展を通じて、分別回収の大切さをあらためて感じて頂くと同時に、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできる環境への貢献であることを、来場した子供たちやご家族の方々に理解頂くすばらしい機会となりました。



容環協展示ブースでの様子 (CHEER FAMILY☆フェスタ☆)



柏原市役所の資源物回収エリア

リサイクルの大切さを啓発。紙パックの手開きや紙すきを体験してもらいました。

【ちよだ環境まつり】2023年6月17日

ちよだ環境まつりは、地球温暖化やごみの減量など、環境の大切さをより多くの方に知って頂くために、千代田区が毎年6月の「環境月間」に合わせて開催している、子供から大人まで楽しめる参加体験型のイベントです。会場の一角にブースを出展し、パネルの掲示、リサイクルされた紙パックからつくられたトイレトペーパーやボックスティッシュの展示などを行いました。親子で楽しみながら紙パックリサイクルについて学べるブースとするため、紙パック再生紙でつくられたぬり絵付きうちわの体験コーナーを設け、お子様連れのご家族に大変好評でした。

本イベントを通じて、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできる環境への貢献であり、限られた資源を大切に使う地球にやさしい生活への意識向上にもつながることを、多くの方々にご理解頂きました。



容環協の出展ブース

ぬり絵に熱心な子供たち

【中央区こどもエコサマーウィーク】2023年8月5日

中央区立環境情報センターは、環境に関する講座や講演会、体験型ワークショップなど、さまざまな環境に関するイベントや情報を開催・発信しています。「こどもエコサマーウィーク」と題した夏のイベント開催中にワークショップを企画し、パックン探検隊の動画を視聴後、手すきはがきづくりやマシンガンズの動画視聴、牛乳パックの手開き体験をしてもらいました。手すきはがきづくりでは、紙パック由来のパルプを水に懸濁させた液体から次第に水分が抜けて紙になっていく過程を体験して頂き、「初めてで楽しかった」「すごく楽しかった」「もう一回したい」などの感想が寄せられました。



手すきはがきづくり

紙パックの手開き体験

【むさしのエコreゾートワークショップ】2023年7月28日

「むさしのエコreゾート」は東京都武蔵野市のごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」の敷地内にあり、旧建物の一部をリノベーションして整備された市民が学べる環境啓発施設です。7～8月の約1か月間、「環境について楽しく学ぼう!」というテーマで、さまざまな団体や企業が環境に関連するワークショップや展示会を開催しており、容環協も牛乳パックン探検隊やマシンガンズの動画視聴、手すきはがきづくりを体験できるワークショップを行いました。また、参加者に牛乳を配布し、飲んで頂いた後、手開き体験をしてもらいました。はさみを使わずに手で開くコツを学んでいただくと同時に、紙パックを開いた人しか見ることができない「リサイクルありがとう」のメッセージの話も、関心を持って聞いて頂きました。



むさしのエコreゾートの外観

紙パックの手開き体験

※むさしのエコreゾートでは11月19日に「第16回むさしの環境フェスタ」が開催され、容環協からパネルや各種啓発冊子、ぬり絵うちわ、ノベルティなどの貸与と提供を行いました。

【野田市リサイクルフェア2023】2023年10月14日

コロナ禍でしばらく中止されていた野田市リサイクルフェアが今年から再開されました。市役所ロビーでは生ごみ堆肥化装置の展示、食品ロス原因・対策のパネル展示などが行われており、容環協はロビーの一面にブースを設置し、手すきはがきづくり、動画の視聴、紙パック手開き体験、啓発パネルの展示などのプログラムで講習会を行い、紙パック由来の再生紙で作成したうちわへのぬり絵コーナーも用意しました。

参加した児童からは「紙すき楽しかった」という嬉しい声も頂き、今回のイベントが楽しかった思い出になり、自宅に帰ってからも紙パックのリサイクルをして頂ければ良いなと思いました。



動画の視聴

手すきはがきづくり

牛乳パックリサイクル出前授業

その他の広告・啓発活動



市民団体や自治体と連携し、学乳パックのリサイクルに向けて出前授業に取り組んでいます。

【神奈川県 横浜市立瀬谷第二小学校】2022年12月19日

持参した屋根型の紙パックと口栓付き紙パックの手開きを実演し、児童たちは「フラップを起こしてから押し込んで開く」口栓付き紙パックの手開きや、再生紙メーカーの工場で作られているジャンボロールの大きさに興味津々でした。授業の後には次々と手が挙がり、ティシュペーパーは紙パック何枚分？1日にどのくらいトイレットペーパーをついているの？どのくらいのスピードで紙パックができて上がるの？などの答えられない質問ばかりでタジタジでした。

(小学校4年生1クラス36名受講)



容環協による講義の様子

【神奈川県 横浜市立矢向小学校】2023年1月19日

持参した屋根型、レンガ型、注ぎ口付き紙パックの手開きを行い、道具を使わずに簡単に手でひらけることを実践しました。2022年度の「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の入賞作品の動画を放映すると、児童からは「凄い!」「小学1年生や3年生がつくったの?!」「僕たちはできっこない!」(そんなことはないと思う!)などの感嘆の声が上がりました。

(個別支援学級)



前のめりて説明を聞く児童

出前授業講義内容

- ・講義 「3Rについて」「牛乳パックのリサイクル方法とメリット」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・質疑応答、他校の事例紹介(ビデオ)

協働実施団体(川崎市)

- ・3R推進プロジェクト(川崎市の市民団体)
- ・グリーンコンシューマグループかわさき(川崎市の市民団体)
- ・川崎市環境局(減量推進課、地球環境推進室)

【神奈川県 川崎市立向丘小学校】2023年9月4日

授業後の感想では「学乳パック1個は小さいけれども皆でやれば沢山のCO₂を減らすことができるので、まずは自分からできることから取り組んでいきたいと思いました」といった頼もしい意見も出ました。担当の先生からは「川崎市最古の小学校として学乳パックリサイクルに取り組まない訳にはいきません。子供たちとも話し合い、どのように進めていくのか検討したいと思います。今後とも宜しくお願いします」といった力強い言葉を頂きました。

(小学校5年生3クラス121名受講)



説明を真剣に聞く児童たち

【神奈川県 川崎市立東門前小学校】2023年9月25日

今回の授業を通じて、市民の意識が高く、紙パックの回収・リサイクルの仕組みができて川崎市なのはどうして飲み終わった学乳パックが焼却処分されているんだろう?という疑問や、このまま焼却ごみが増えると処分場がいっぱいになり皆が困るので自分たちもリサイクルに協力してごみを減らしたいという気持ちが芽生えてきたようです。

(小学校5年生4クラス134名受講)

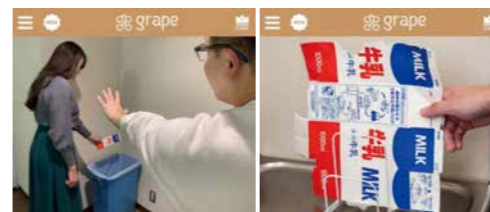


容環協による講義の様子

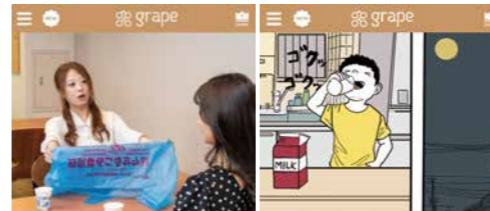
【WebやSNSを活用したタイアップ広告】

紙パックの特徴、リサイクルの意義、正しい分別方法、再生紙工場の工程や設備、身近な再生品などを広く多くの方々にお伝えし、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできるSDGsへの取り組みであることをご理解頂くため、2022年からWebやSNSを活用したタイアップ広告を継続しています。スマホやPCを日常的に使用している方々は多く、これまでに計7回のWeb広告のページビュー(PV)数は累計で約200万PVとなっており、Web広告とリンクさせた容環協HPの閲覧数も伸びています。ご覧頂いた方々によるSNSへの投稿、SNS上での活発な意見交換や議論なども行われており、Web広告は多くの方々にとって紙パックリサイクルについて改めて考えて頂くきっかけにもなっていると共に、容環協としても、さまざまな視点からの意見を伺うことのできる気付きとなっています。10月から掲載している第7弾では、若い方々に気軽に読んで頂けるよう、家庭での日常的な会話から始まるマンガ記事を掲載しました。

今後とも、リサイクル講習会、出前授業、イベント出展などの直接的な啓発活動に加えて、広く多くの方々に情報をお伝えすることのできるWebやSNSを始めとした媒体やHPを通じた啓発活動に取り組んでいきます。



ゴミ箱に紙パックを捨てようとした女性 同僚に注意されると...?
大量の紙パックを抱える女性 その理由に「が、頑張って...」



有料のゴミ袋を節約する方法に「誰も損しない」「広まってほしい」
「あーまってまって!」飲み終わった紙パックを捨てようとした男子、すると母親が...?

【自治体指定のごみ袋への広告掲載】

2019年から、各自治体が指定している「可燃ごみ袋」へ「紙パックは捨てずにリサイクル」のメッセージを掲載し、広く市民の方々に啓発する取組みを進めています。2023年度には、前年度に掲載頂いた東京都八王子市、三鷹市、羽村市の3市に加えて、新たに神奈川県逗子市、大阪府泉佐野市を加えた5市へ広告の掲載を申請し、全て承認されました。5市を合わせた人口は約100万人にもなり、ごみ袋の購入時や使用時に容環協のメッセージを確認頂けるものと思います。HPの「暮らし」や「ごみの出し方」のページに、一定期間、容環協HPへリンクするバナーを設定頂ける自治体もあり、新しいごみ袋が作成され、流通される次第、掲載をお願いする予定です。

ごみ袋への広告掲載は、行政にとってはごみが削減されて焼却施設への負荷が減る、市民の皆さまにとってはかさばる紙パックを有料のごみ袋に入れなくて良い、容環協にとっては紙パックリサイクルの促進につながるといった、まさに「三方よし」の取り組みです。今後とも容環協では市民の皆さまに向けて、紙パックリサイクルの意義を伝えていきます。

●各自治体指定の可燃ごみ袋へ掲載頂く啓発メッセージ



八王子市



三鷹市

羽村市、逗子市



泉佐野市



連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロ2023】12月6日～8日

東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境イベントに本年度も出展しました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、ブースについては博物館や美術館のように展示物を閲覧する形式から、スタンプラリーを取り入れた参加型に変更しました。初めての試みとなるスタンプラリー。小学生や中学生にも正しい紙パックのリサイクルについて楽しく学んでもらえるよう、いろいろな工夫をしました。ブースにはSDGsの視点で制作した6枚パネルにヒントがあるクイズがあり、入口で〇×欄がある台紙をもらい、牛乳パックの絵柄のスタンプを正しいと思うように押していきます。各コーナーでは容環協の専門委員がパネルの説明を行い、クイズに回答した後、次のコーナーに進み、スタンプラリーを完成させます。参加頂いた方には紙パック由来の再生パルプからつくった手すきはがきやメモカードをプレゼントしました。スタンプラリーは大変好評で、準備していた1,000個のノベルティは2日目で完配となり、以降は紙パックで地球にやさしくNOTEBOOKをプレゼントしました。各コーナーでは、「リサイクルするとどんないいことがあるの?」「なぜ紙パックは

分別してだすの?」「紙パックのふるさは?」「回収した紙パックから何ができるの?」「回収率はどれくらい?」といったさまざまな疑問や意見が寄せられ、専門委員が丁寧に説明しました。

3日間のエコプロ2023開催期間中の累計来場者数は約67,000名であり、そのうち約2,500名の方(累計来場者数の3.7%に当たります)が容環協ブースに足を運んで下さいました。ブースでは、会員の乳業メーカーから提供頂いたデザインや地域色が豊かな紙パック、リサイクルされた紙パックからつくられた再生品、「紙パックマーク」と「紙マーク」の付いたさまざまな製品などをスーパーマーケットの店頭をイメージして展示すると共に、例年どおり、牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールの入賞作品を展示しました。また、大型モニターでは、牛乳パックン探検隊、マシンガンズの動画、流山市立おおたかの森小学校の牛乳パック回収の取組み、再生紙工場の工程、コンクールの入賞作品の紹介、容環協の活動紹介の6本の動画に加えて、(一社)日本乳業協会より提供頂いた「教えて!!牛乳先生」の4本の動画も併せて上映しました。

ご来場頂いた方々には、紙パックをリサイクルしたポケットティッシュ、「地球にやさしく紙パックのリサイクル」や「知ってほしい紙パックとリサイクル」の冊子を配布しました。今回の展示を通じて、「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取組みであること」を多くの方々にご理解頂いたものと思います。

田中琉凰さんの作品
『GO! GO! ミルクカー』が
見事最優秀賞に。

23回目となる「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が開催され、全国の小学校より3,560作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞7作品が選ばれました。入賞された皆様、おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞
『GO! GO! ミルクカー』
田中 琉凰さん(岐阜県岐阜市立市橋小学校6年)
- ◆優秀賞 『かつしかほくさい』
川崎 実莉さん(大阪府堺市立竹城台東小学校2年)
- ◆優秀賞 『ミルクハウス絵本』
真崎 妃菜里さん(北海道千歳市立末広小学校3年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『おべんとうスタジアム』
柏保 要さん(埼玉県鴻巣市立松原小学校4年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『きんぎょのらんちゅうです』
牧口 和寿彦さん(埼玉県北本市立西小学校1年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『テッセラの牛-モザイクの彩り-』
飯田 都和さん(京都府京都市立藤ノ森小学校3年)
- ◆日本乳業協会賞
『かぶと&かつちゅう』
田中 翠晴さん(岐阜県岐阜市立市橋小学校3年)

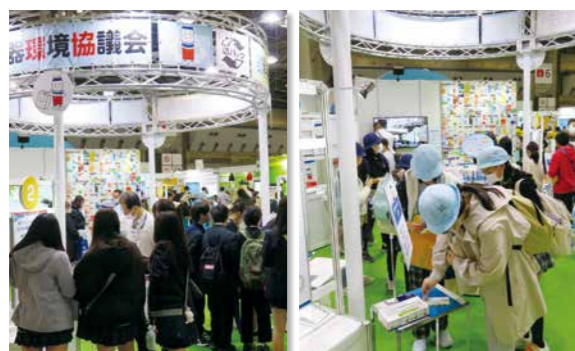
最優秀賞には、岐阜県の6年生田中琉凰さんの作品『GO! GO! ミルクカー』が選ばれました。剛性を出すために、牛乳パックを何枚も重ねてブロック状にして土台となるボディを作ったり、同じ大きさに切り抜いた円を重ねてタイヤにしたりと、牛乳パックという素材からは想像できないほどの質実剛健な作り方はもちろんのこと、保育士をしているお母さんの職場の牛乳パックを活用し、子供も乗って遊べる頑丈なスクーターにして、お母さんの職場にプレゼントしたというエピソードも審査員全員から高く評価されました。

本年度も「エコプロ2023」の容環協ブースで受賞作品を展示しました。来場された方々からは「紙パックからこんな素晴らしい作品ができるなんて!」という感嘆の声が上がっていました。また、表彰式も東京駅前の会場にて開催され、審査委員長の東京国立博物館・藤原館長、実行委員長の容環協・柳田会長をはじめ、審査委員の方々から受賞者に賞状・トロフィー・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学生向けHP「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞『GO! GO! ミルクカー』



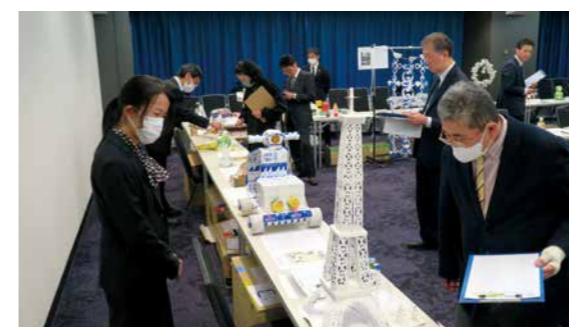
来場者で賑わう容環協のブース

好評だったスタンプラリー



乳業メーカーから提供頂いた
さまざまな紙パックの展示

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』
コンクールの入賞作品の展示



審査のようす



表彰式のようす



2022年度の紙パック回収率は38.7%でした。

紙パックリサイクルに関する情報を関係者や社会に提供するため、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2023年6月～10月に実施され、2022年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2022年度の紙パック全体の回収率は38.7%（前年度から0.1ポイント減）、使用済紙パック回収率は29.4%（同0.1ポイント減）となりました。

なお、紙パックとしてではなく、他の古紙として回収された後に紙パックとして選別されてリサイクルされていても回収量に計上されていないものがあり、この推計回収量を含めると、紙パック回収率は39.6%、使用済紙パック回収率は30.5%となります。

※2022年度実態調査では、紙パックメーカー8社・飲料メーカー250社・市区町村1,741・小学校1,920・スーパーマーケット等1,104・市民団体および福祉施設22・製紙メーカー23社等をアンケート調査対象とし、あわせてヒアリング調査を実施しました。なお、福島原発事故の影響により一部地域について実施を控えていたが、本年度調査からすべての市区町村を対象としています。
※「産業損紙・古紙」とは、紙パック製造工場や飲料工場で発生した損紙や古紙をいいます。
※「損紙」とは紙パック製造工場や飲料工場で飲料充填前に発生した端材などを、「古紙」とは飲料充填後に発生した紙パックをいいます。また、「使用済紙パック」とは、家庭、学校、店舗、事業所などで飲み終わった紙パックを指します。

2022年度の紙パック回収率

紙パック回収率（産業損紙・古紙を含む）

38.7%
(2021年度 38.8%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=80.6千トン / 208.5千トン

使用済紙パック回収率（使用された紙パック）

29.4%
(2021年度 29.5%)

=使用済紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=53.2千トン / 180.8千トン

参考 他の古紙への混入や再活用を反映した回収率

使用済紙パックのうち、他の古紙として回収され、紙パックとして選別・資源化されながらも回収量に計上されていないものが1.9千トン、使用済紙パックのうち、まな板などに再活用された後に廃棄されるものが約9.7千トンあると推計されています。前者を分子に加え、後者を分母から控除したときの回収率は次のようになります。

紙パック回収率=41.5%、使用済紙パック回収率=32.2%

市町村回収や
集団回収の紙パック取引価格が
上昇しています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料であり、高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、資源価格以外の条件がつかない取引を対象に、相手先別に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収（東京特別区の回収を含む）と集団回収の価格を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村回収の取引価格をみると、古紙回収業者への引渡で0.8円上昇したのをはじめとして、すべての取引で価格が上昇し、平均では0.9円の価格上昇となりました。また、集団回収も引渡、持込ともに価格が上昇し、平均では0.2円の価格上昇となりました。

紙パック古紙の平均取引価格

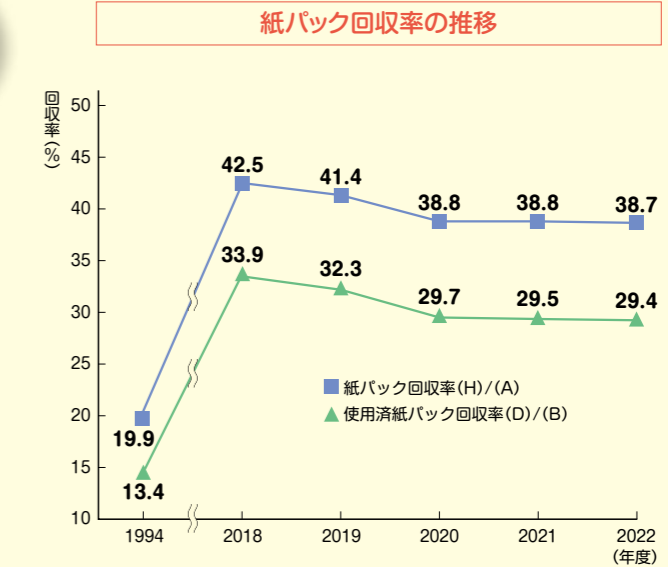
年度		2019	2020	2021	2022	
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.6	4.2	4.3	5.1
		持込価格	7.0	4.7	4.4	5.0
	古紙原料問屋	引渡価格	8.3	5.1	5.5	6.7
		持込価格	9.0	5.7	5.9	7.4
	再生紙メーカー	引渡価格	6.4	4.7	4.1	6.4
		持込価格	10.0	10.1	8.2	11.0
平均価格		7.6	5.0	4.9	5.8	
集団回収	取引先不問	引渡価格	4.7	3.7	3.7	4.0
		持込価格	5.3	4.0	4.8	5.0
	平均価格	4.8	3.8	4.1	4.3	

(円/kg)

2022年度の紙パック回収量は
80.6千トンでした。

国内紙パックの回収率は、右の図のように推移しています。回収量と回収率の詳細は下の表のとおりです。

2022年度の国内紙パック回収量は、前年度より1.4千トン(1.7%)減少した80.6千トンでした。紙パックメーカーの損紙など、産業損紙・古紙の回収量は前年度から0.4千トン減少しました。使用済紙パックでは学校給食の増加に伴って事業系回収量は微増しましたが、家庭系回収量が減少し、全体では前年度から0.9千トン減少しました。回収量が減少した一方で、原紙使用量は2.8千トン、出荷量は2.3千トン減少しています。その結果、紙パック回収率、使用済紙パック回収率ともに前年度から0.1ポイントの微減となりました。



主要データの推移 (単位:千トン)

区分	1994	2018	2019	2020	2021	2022	対前年度	
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	223.0	216.6	216.9	211.2	208.5	-1.3%	
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	27.3	27.1	26.4	26.2	25.4	-3.2%	
飲料メーカー産業損紙等発生量	-	2.2	2.3	1.9	1.9	2.3	+21.6%	
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	193.3	187.0	188.7	183.1	180.8	-1.2%	
家庭系(C)	168.7	171.4	165.3	167.8	160.9	158.0	-1.8%	
事業系出荷量	29.2	21.8	21.7	20.9	22.2	22.8	+2.6%	
学校給食	10.7	12.1	11.6	11.9	13.1	13.3	+1.7%	
飲食店等	18.5	9.7	10.1	9.0	9.1	9.4	+3.9%	
使用済紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	65.5	60.4	56.1	54.1	53.2	-1.7%	
家庭系(E)	25.9	54.8	50.9	48.5	46.8	45.6	-2.6%	
店頭回収	13.8	27.9	28.0	27.5	26.5	25.6	-3.4%	
市町村回収	4.3	11.3	10.8	10.6	10.3	10.0	-3.1%	
集団回収等	7.8	15.7	12.2	10.3	9.9	10.0	+0.3%	
市町村登録団体等	7.8	7.6	7.0	5.6	5.4	5.3	-1.7%	
古紙原料問屋による独自回収等	-	8.1	5.1	4.7	4.5	4.6	+2.6%	
事業系(F)	0.6	10.6	9.5	7.6	7.3	7.6	+3.8%	
学校給食	0.6	8.6	7.6	5.7	5.5	5.8	+6.1%	
飲食店等	-	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	-3.2%	
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	29.3	29.2	28.0	27.9	27.5	-1.6%	
紙パックメーカー	16.5	27.3	27.1	26.4	26.2	25.4	-3.2%	
飲料メーカー	-	2.0	2.1	1.6	1.7	2.1	+22.9%	
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	94.7	89.6	84.1	82.0	80.6	-1.7%	
紙パック古紙輸入量	-	19.4	12.9	13.1	12.0	12.8	+6.4%	
紙パック総受入量	43.0	114.2	102.5	97.2	94.1	93.5	-0.6%	
紙パック再資源化量	30.1	86.0	77.0	75.5	75.2	75.4	+0.3%	
回収率	紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	42.5%	41.4%	38.8%	38.8%	38.7%	-0.1ポイント
	使用済紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	33.9%	32.3%	29.7%	29.5%	29.4%	-0.1ポイント
	家庭系使用済紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	32.0%	30.8%	28.9%	29.1%	28.8%	-0.3ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留。歩留は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミ付き紙パックを含みます。

※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2022年度 紙パックマテリアルフロー

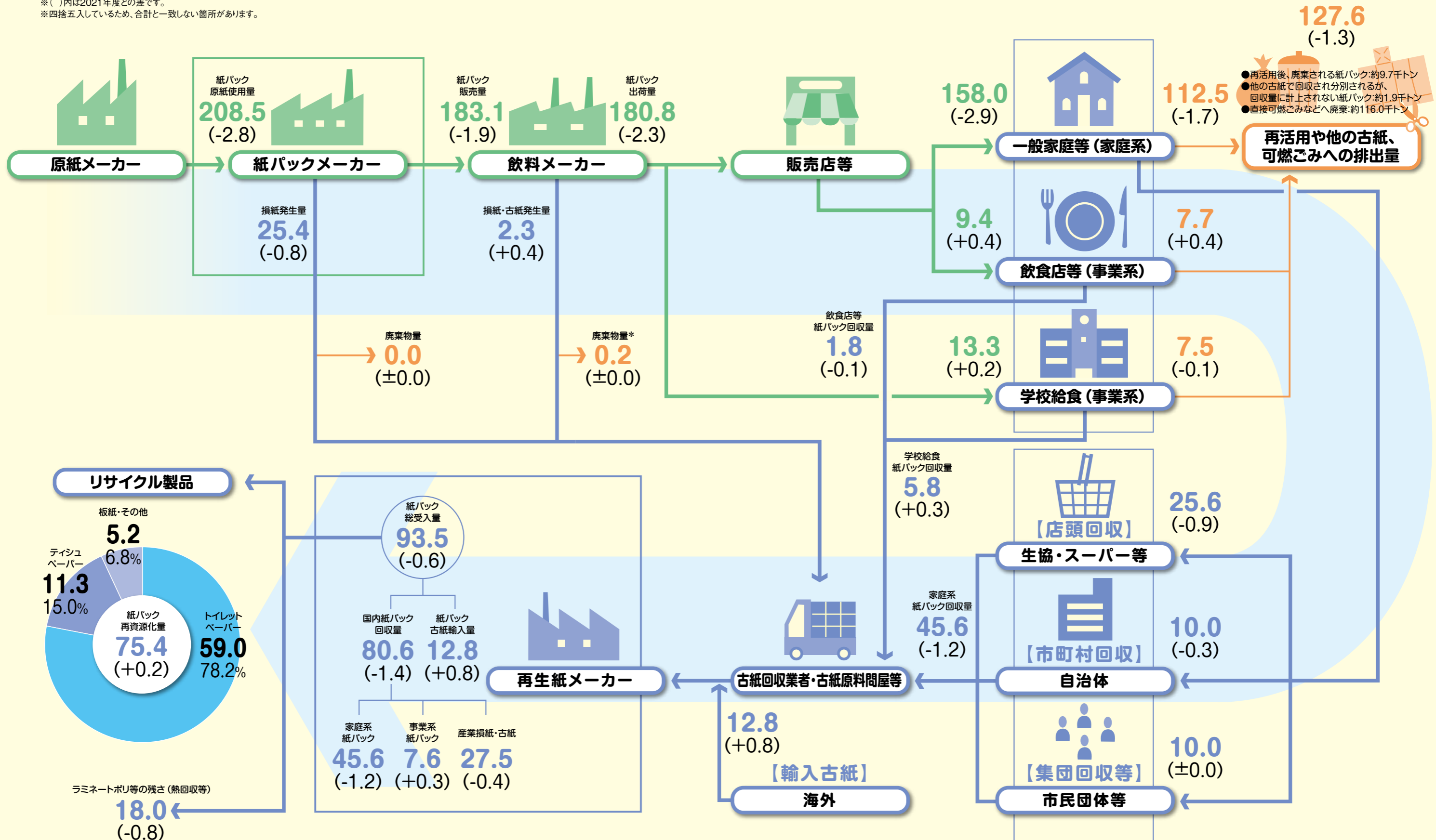


牛乳パックをリサイクルすると
CO₂が削減できます



2022年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
※()内は2021年度との差です。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。

小売事業者のリサイクル状況

福祉施設のリサイクル状況



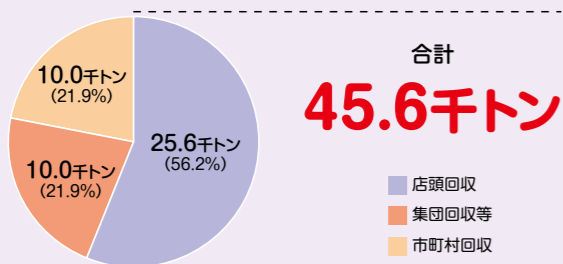
スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスで多くの紙パックが回収されています。

家庭からの紙パック回収の50%以上を占めているのがスーパーマーケットなどの店頭回収ボックスからの回収です。

店頭回収の調査は、生活協同組合やスーパーマーケット各社の公表データ、及び独自アンケート調査で行っています。2022年度におけるこれらの合計値は前年度より0.9千トン減少し、25.6千トンでした。家庭系に占める店頭回収の比率は、前年度から0.5ポイント下がり56.2%となりました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアやコンビニエンスストアについても調査を行っています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



取り組んでいます! リサイクル

相鉄ローゼン株式会社

(本社:横浜市西区)

取組事例

相鉄ローゼンは神奈川県下No.1を目指すスーパーマーケット業を基幹事業として、時流やお客の変化を捉えながら、提供する商品の安全や質的な向上をはかると共に、積極的に食育や環境問題に取り組むなど、健康で快適な生活に貢献するためのさまざまな取り組みに挑戦しています。県内ではスーパーマーケット約50店舗を展開しています。

市民生活に密着する事業を通じて社会に貢献することを経営理念に掲げており、五つの柱からなる行動基準をHPで公開しています。基準の一つに「地域社会の信頼を得るために」を掲げており、この中で「限りある資源を大切にすため、省エネルギーとリサイクルに努めるとともに、環境に配慮した店づくり、販売活動を行い、環境保全に積極的に取り組む」ことを明言しています。各店舗には紙パックを始めとした容器包装をリサイクルするための回収ボックスを設置し、2022年度の紙パック回収量は合計で46,510kgでした。回収した紙パックについては古紙回収業者を通じて再生紙メーカーに納入し、家庭紙などの原料として活用頂いています。また、相鉄ローゼンでは循環型農業として、店内で発生した野菜くずなどを堆肥化し、その堆肥を使って育てた野菜の販売や、食品ロス低減に向けたフードドライブの推進等、SDGsの課題達成に向けたさまざまな取り組みを行っています。

今後とも経営理念と行動基準のもと、地域のみなさまに親しまれ、愛される企業として、社会的責任を果たして参ります。



循環型農業のイメージ図

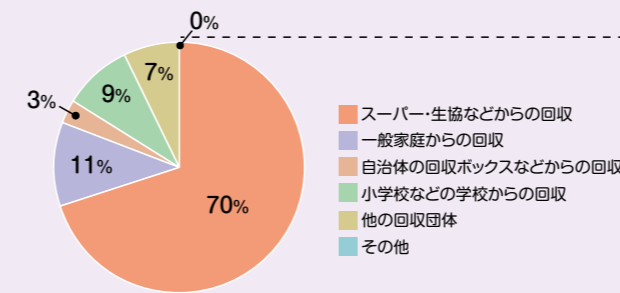


紙パックを始めとした容器包装の回収ボックス

福祉施設の回収先は多岐にわたっています。

福祉施設の回収先は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが多いほか、一般家庭、小学校などの学校、自治体の回収ボックスなどと多岐にわたっています。また、多くの施設では、回収・受け入れた紙パックを主に回収業者に引き渡しています。

福祉施設の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

紙好き交流センター 麦の会

(大阪府交野市)

取組事例

紙好き交流センター麦の会のコンセプトは、次の4つです。

1. 紙ごみの減量…資源のリサイクル
2. 森林資源の保護…地球温暖化防止
3. 福祉作業所の支援…障がい者の仕事作り(自立)
4. 紙すき教室…環境教育へのアプローチ

交野市の作業所では現在5名の障がい者の方が、紙パックを原料に手仕事ならではの風合いのある手すき紙でオーダーメイドの名刺や便せんなどを作成しています。ここでの仕事で自信をつけ、多くの方が多方面に巣立っています。

『麦の会』では、紙すきにかかわる道具・機械を独自で開発し、全国500あまりの福祉作業所に材料の供給、技術指導・アドバイス、企業から受けた仕事の振り分けなどを行ない、福祉作業所への自立支援活動をボランティアで行なっています。また、紙パックのリサイクルを有効活用した循環型社会を形成するための発信基地になっています。

容環協からも「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の表彰状や事務局および専門委員の名刺の発注の仕事をしていただいております。コロナ禍により企業からの名刺の発注などが減少し厳しい状況が続いています。会員・賛助会員の皆様からのお仕事の依頼をお待ちしています。

よろしくお願いいたします。



型枠を使った手すき作業



すいた紙の乾燥工程

市町村回収・集団回収の状況

捨てるなんてもったいない!



9割の自治体が紙パック回収に取り組んでいます。

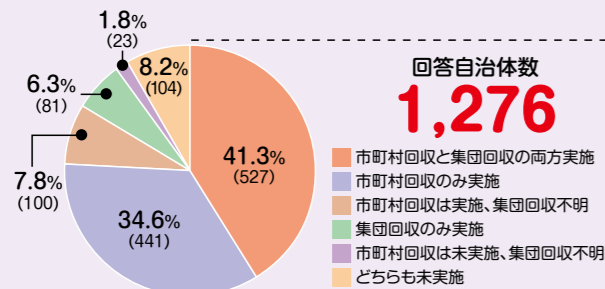
2022年度調査は全国の1,741市区町村を対象に実施し、1,276市区町村から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の92.8%になります。

調査では、市区町村や一部事務組合などが行う回収を「市町村回収」、住民団体による自主的な回収を「集団回収」としています。

市区町村数で見たとき、市町村回収実施率と、市区町村登録の集団回収実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が83.7%、集団回収実施率は52.7%※でした。市町村回収と集団回収の少なくとも一方を実施しているのは90.0%で、全国の9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

※集団回収実施率=(市町村回収と集団回収を両方実施+集団回収のみ実施) / [回答自治体数-(市町村回収実施+集団回収不明の自治体数+市町村回収未実施+集団回収不明の自治体数)]=(527+81) / (1276-(100+23))=52.7%

市町村回収と集団回収の実施率



市町村回収や集団回収で15.3千トンの紙パックが回収されました。

市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2022年度は市町村回収が10.0千トン、集団回収が5.3千トンで、合計では15.3千トンでした。

1人あたりの回収量(原単位)をみると、市町村回収は、町村や一般市が大きく、政令指定都市や東京特別区では小さくなっています。また、集団回収は、東京特別区が小さくなっています。両方を合計した回収原単位は、一般市と町村で大きく、政令指定都市や東京特別区などの大都市で小さくなっています。ただし、政令指定都市や東京特別区は、市や区によってさまざまです。

都市規模や地域によって異なる紙パック回収の実情を踏まえ、紙パック回収量を増やすための検討を進めることが課題といえるでしょう。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

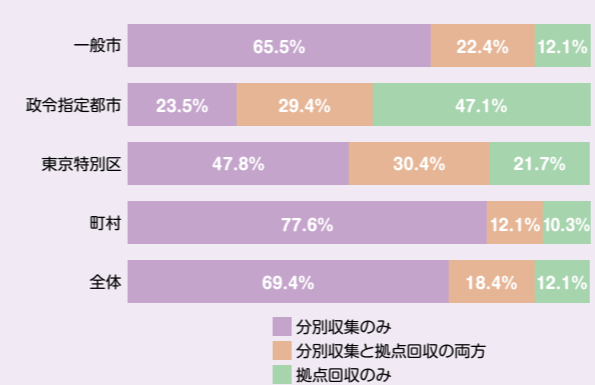
	全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収					
推計量(千トン)	10.0	7.3	0.7	0.7	1.2
都市類型別回収推計量比率	100%	73%	7%	7%	12%
一人あたりの回収量(g)	79	94	26	72	118
集団回収					
推計量(千トン)	5.3	3.9	1.0	0.1	0.3
都市類型別回収推計量比率	100%	73%	18%	3%	6%
一人あたりの回収量(g)	42	49	36	16	32
合計					
推計量(千トン)	15.3	11.2	1.7	0.8	1.6
都市類型別回収推計量比率	100%	73%	11%	5%	10%
一人あたりの回収量(g)	122	143	62	88	150
都市類型別人口(百万人)	126	78	27	10	11

紙パックの市町村回収は分別収集方式や拠点回収方式で実施されています。

市町村回収の紙パック回収方式には、分別収集方式と拠点回収方式があります。分別収集とは各戸やステーションからの回収で、拠点回収は公民館の回収ボックスなどからの回収です。

紙パックを回収している市区町村を都市類型別にみると、一般市と町村では分別収集が多く、2022年度では一般市の65.5%、町村の77.6%は「分別収集のみ」となっています。政令指定都市と東京特別区は拠点回収が多く、特に政令指定都市では「拠点回収のみ」が47.1%となっています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

東京都目黒区

取組事例

東京都目黒区は武蔵野台地の東南部に位置し、北は渋谷、東は品川、西は世田谷、南は大田の各区に接しています。面積は14.67平方キロメートルで、人口は約28万人です。

目黒区では、多くのスーパーマーケットに紙パック回収ボックスが置かれ、事業者による店頭回収が活発に行われています。また、区のHPでは、「洗って開いて乾燥する」紙パックの出し方のルールをイラスト付きで載せると共に、紙パックの回収を行っているエコプラザや区内の住区センターなど、約40か所の公共施設を公開しています。区が行う拠点回収では、令和4年度の紙パックの回収量は4,380kgとなっています。そのほか、町会・自治会やマンションの管理組合などの区民で構成される団体が、日時、場所、品目などを決めて資源物を資源回収業者に引き取ってもらう自主的なリサイクル活動を行っており、令和4年度の紙パック回収量は約120kgとなっています。

区役所内に事務所を置いている「エコライフめぐる推進協会」では、目黒区と連携し、低炭素社会の実現に向けて、エコロジー、省エネ、リサイクルなどにかかわるさまざまなアイデアやコツ、情報などを発信する「めぐるスマートライフ」と題したWebサイトを運営しており、非常に多くのアクセスがあります。このサイトでも紙パックの回収やリサイクルについての特集記事を掲載し、紙パックは良質な資源であり、捨てずにリサイクルして欲しいことを区民の方々へ発信しています。

これからも目黒区はごみの減量、資源の回収とリサイクルに取り組んでいきます。



めぐるスマートライフでの紙パックリサイクルの特集記事(抜粋) 公共施設エコプラザの紙パック回収ボックス

学校のリサイクル状況

製紙メーカーのリサイクル状況

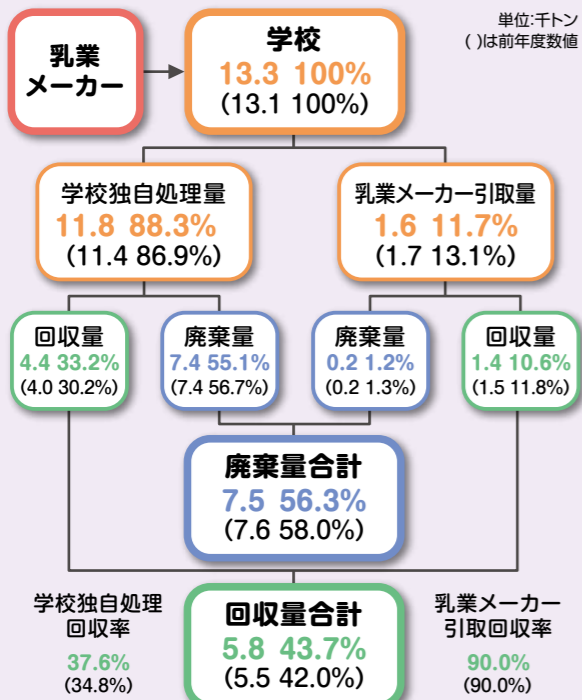


学校給食用牛乳の紙パックのリサイクル率はやや上昇しました。

2022年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は前年度より0.2千トン多い13.3千トンでした。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは5.8千トン、回収率は43.7%で、回収量と回収率はともに前年度を上回りました。学校独自処理回収率は前年度に比べて2.8ポイント上昇しました。しかしながら、6割近くが廃棄されている状況は変わりません。

2022年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響がありました。コロナ前と変わらずにリサイクルしている小学校や、飲み終わった紙パックの洗浄方法を工夫している小学校もありました。学校生活での日常が戻りつつあるなかで、いかに回収を進めるかが課題になっています。また、びんから紙パックへの切り替えを検討する際には、適切に回収・リサイクルされるかどうかも含めて検討する必要があります。

学乳紙パックのマテリアルフロー (推計値)



※学校独自処理とは、乳業メーカーが引き取るのではなく、学校が直接自治体や古紙回収業者などに引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル 千葉県 流山市立おおたかの森小学校

取組事例

おおたかの森小学校は日本建築学会賞を受賞した3階建ての開放感あふれる校舎が印象的な小学校で、つくばエクスプレス沿線の豊かな自然と駅前の生活利便施設を兼ね備えた地域に立地しています。

容環協は、2023年5月に同校を訪問し、学校給食用紙パック(学乳パック)の回収とリサイクルへの取組みを取材しました。

同校では、2019年から継続して、1年生から6年生までの1,700人を超える児童と先生方で学乳パックの回収とリサイクルに取り組んでいます。

児童は、自分が飲み終わった学乳パックを給食トレイの上や洗い場で開き、水ですすいだ後、クラス毎の水切りかごに入れて乾かします。翌日に乾いた学乳パックをクラス毎にポリエチレン袋に詰め、給食後の清掃の時間に、ごみ分別&資源物回収ステーションにある大きな容器に集めます。その後、集めた学乳パックを大きなポリエチレン袋に詰めて、指定の保管場所へ持って行き、ここで搬出まで保管します。週に2回、近くの回収業者に回収していただいているとのことでした。

高学年のお兄さんやお姉さんが、入学して間もない新1年生に洗い場で丁寧に手開きの方法を教えている場面、ごみ分別&資源物回収ステーションでさまざまな学年の児童に自信と責任に満ちた態度で分別を教えている場面が非常に印象的でした。同校では、学年をまたいだ縦のつながりがしっかりとできており、紙パックリサイクルに限らず、今後も学校の文化がしっかりと継承されていくものと感じました。



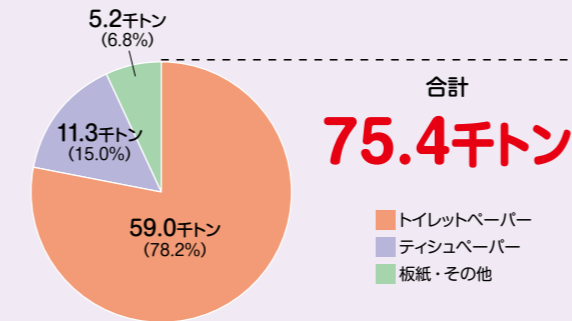
学乳パックを集めているようす

回収された紙パックは良質なパルプ繊維として再生されています。

2022年度の国内紙パック回収量80.6千トンと紙パック古紙輸入量をあわせた総受入量は93.5千トンでした。ラミネートポリやその他の不純物を取り除き、75.4千トンのトイレトペーパーやティシュペーパーなどの家庭紙に再資源化されました。

紙パックは良質なパルプ繊維として、これらの製品の貴重な原料になっています。

リサイクル製品への利用状況



取り組んでいます! リサイクル コアレックス三栄株式会社 東京工場 (神奈川県川崎市)

取組事例

容環協は2023年7月、コアレックス三栄 東京工場を訪問し、視察と共に意見交換を行いました。

当工場は、国家プロジェクトの一環としてゼロ・エミッションを実現し、2003年に誕生しました。古紙を再生する際に発生するプラスチック類、ペーパーズラッジなどを回収ボイラーで燃焼して蒸気をつくり、生産工程で再利用します。燃焼後の灰はセメントの原料として再利用します。また、家庭で使用された水を高度処理し、工場用水として再利用するとともに、4段階にもおよぶ浄化システムで排水をキレイにしてから海へ放流します。工場見学し、あらためてその先進性に驚きを覚えました。

現在、当工場の原料は機密文書が半分程度を占めており、完全予約のもとで処理されています。紙パックを配合することにより、トイレトペーパーの品質を整えています。

工場見学後のディスカッションにおいては、新しい取組みに話題がおよびました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で使用された紙資源は全てグループ会社のコアレックス信栄(静岡県富士市)でトイレトペーパーに再生されたとのこと。自治体や企業との連携事例として座間市およびイオンモールとの連携、熱海や伊豆長岡の旅館との連携などを通じて紙資源のリサイクルを推進しているとのことでした。

今後も容環協は製紙メーカーと連携し、啓発活動に注力する必要性を強く感じました。



コアレックス三栄株式会社 東京工場

再生紙製品の事例



そだてる

管理された健康な森は、大気中の二酸化炭素をよく取り込み、酸素を排出します。



森林のライフサイクル

50~100年のサイクル

紙パックの原料は枯渇しません。

紙パックの原料となるのは、北米や北欧の主に針葉樹です。これらの森林は、森林認証制度に基づいて管理され、伐採、幼苗の植え付け、育成が計画的に行われています。北米の針葉樹は約50~80年、北欧では約70~100年、間伐などをして管理、育成されます。

うえる

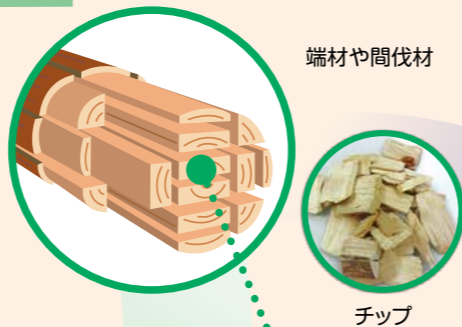


母木から種子を採り、幼苗生育場で大量に育て、伐採した土地に計画的に植え付けていきます。

つかう

木はムダなく使われます。

伐採された木は、主として建材や家具として利用されます。間伐材の細いものや建材の端材、枝をチップにして、紙の原料として利用します。針葉樹は繊維が長く、紙パックの加工や強度保持に適しています。



端材や間伐材

チップ



建材の集積場所



建材や家具材

リサイクル製品に



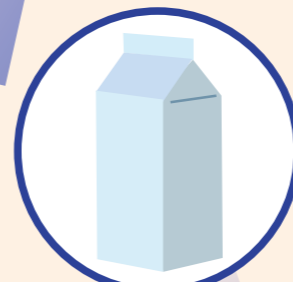
飲み終わった紙パックは上質な資源。リサイクル製品に生まれ変わります。

再生紙メーカー

ラミネート部分を取り除き、原紙部分を再溶解します。この時インクの残りなどを除いて、きれいなパルプに作り上げて、トイレトペーパーなどのリサイクル製品にします。



製紙メーカー



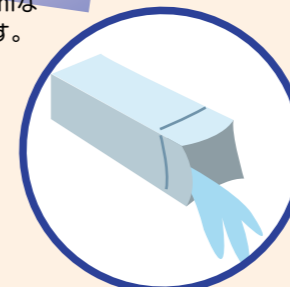
紙パック

紙パックとは、牛乳容器、乳飲料容器、ジュースなどの容器で内側にアルミのないものをいいます。1000mlの他に500ml、200mlなどの容器も集められています。

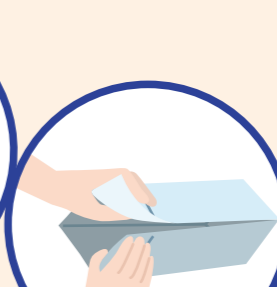
紙パックのリサイクル



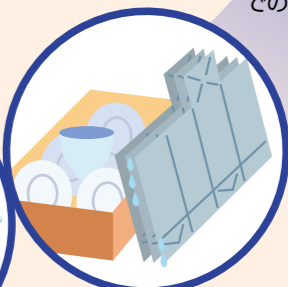
- ① 洗って
- ② 開いて
- ③ 乾かして



洗って



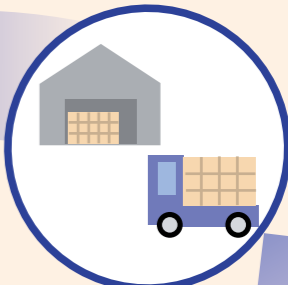
開いて



乾かして

回収業者・古紙問屋

紙パックを選別して、再生紙メーカーに輸送します。



回収

回収方法には、スーパーなどの店頭回収、市町村回収、市民団体などによる集団回収や学校などでの回収があります。

紙パックは環境負荷の少ない容器*

1000mlの紙パック1枚当たりのCO₂排出量は、32.4gと環境負荷の少ない容器です。

1000mlの紙パック1枚のリサイクルは、CO₂排出量23.4gの削減につながります。

*出典は環境省請負調査、(財)政策科学研究所「平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業 報告書」

あゆみ



牛乳パックとその他の紙は混ぜないで！
リサイクルされる工場(工程)が違います



●全国牛乳容器環境協議会のあゆみ ■全国牛乳パックの再利用を考える連絡会のあゆみ ★連携強化活動

年度	あゆみ	関連法規の動き
1984年	■ものたのせつさを子どもたちに伝えたいと山梨県の主婦グループが牛乳パックの再利用運動を開始	
1985年	■「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」発足(1985年) ●「全国牛乳容器環境協議会」設立(1992年) ■「牛乳パック再利用マーク」決定(1992年)	
1993年	●林野庁主催「森林の市」に出展(1993年より2008年まで毎年出展)	●環境基本法制定(1993年)
1995年	●「飲料用紙容器(紙パック)リサイクルの現状と動向に関する基本調査」開始	●容器包装リサイクル法制定
1996年	●「飲料用紙容器リサイクル協議会」発足	
1997年	■牛乳パック回収システム全国事例調査の実施	●容器包装リサイクル法施行
1998年	●学校給食用牛乳パックのリサイクル推進モデル事業を開始(北海道) ■学校給食用牛乳パック等の回収・再商品化システム構築のための実験プロジェクトの実施(福岡、兵庫) ■飲料用紙容器の回収促進のための懇親会の開催(開催場所*1)	
1999年	★紙パックリサイクル促進地域会議の開催(継続開催*1)	
2000年	●紙パック識別マーク自主制定 ●飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会開始(継続開催)	●容器包装リサイクル法完全施行 ●循環型社会形成推進基本法制定 ●資源有効利用促進法制定
2001年	★牛乳パック回収拠点拡大運動の展開(回収ボックスを各地域へ提供)	●グリーン購入法等制定
2002年	●全国牛乳容器環境協議会10周年記念シンポジウム開催 ★牛乳パック回収拠点10,000か所拡大活動開始 ●紙パックのライフサイクルアセスメント(LCA)調査開始(継続実施)	
2003年	★北米における紙パックLCA調査実施	
2004年	●環境キャンペーン開始(毎年環境月間、3R月間に実施) ★紙パックリサイクル講習会の開催(継続実施*2) ●国内最大級の環境関連展示会「エコプロダクツ2004」出展(毎年継続出展)	●容器包装リサイクル法見直し審議開始
2005年	●紙パックの回収率目標2010年度50%以上を設定 ●容器包装の3R推進のための自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」開設 ★北米における紙パックLCA調査実施	
2006年	■全国パック連20周年記念集会	●容器包装リサイクル法改正・立法化
2007年	●「プラン2010飲料用紙パックリサイクル行動計画-回収率50%に向けて-」策定・発刊 ●環境月間の主要行事「エコライフ・フェア2007」に出展(毎年継続出展) ■「環の縁結びフォーラム-全国パック連情報交流会-」協賛(毎年継続開催) ★北米における紙パックLCA調査 ★牛乳パックリサイクル出前授業開始(継続実施*3) ★牛乳パック回収拠点拡大運動のさらなる展開(20,000か所目標)	
2008年	●洞爺湖サミット記念環境総合展2008出展 ★飲料用紙容器へのCTMP採用問題対応会議	●改正容器包装リサイクル法完全施行
2009年	★書籍「紙パック宣言」出版	
2010年	★DVD「牛乳パックン探検隊」制作 ★第1回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(韓国ソウル開催)	
2011年	★冊子「紙パックリサイクルほんとはなし」発行 ★紙パックリサイクル韓国出前授業指導者講習会開催(韓国) ★回収ボックス配布20,000か所達成 ●「プラン2015飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装の3R推進のための第二次自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★第2回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(大阪開催) ■「牛乳パック再利用マーク普及促進協議会」設立	

年度	あゆみ	関連法規の動き
2012年	●容環協運営新組織発足(総務・支部組織・広報・イベント委員会) ★第3回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(韓国慶州開催) ★北米における紙パックLCA調査実施	
2013年	●容環協創立20周年記念シンポジウム開催 ★冊子「「もったいない」ものがたり」発行	●改正容器包装リサイクル法見直し審議開始
2014年	●紙パック組成分析調査(松戸市)	
2015年	●紙パック組成分析調査(町田市) ★冊子「紙パックリサイクル全国20事例集第4集」発行 ★「紙パックリサイクルに関わる製紙メーカー意見交換会」開催(毎年継続開催)	
2016年	●「プラン2020飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装3Rのための第三次自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★北米における紙パックLCA調査・紙パックリサイクル実態視察 ★リーフレット「ひと目でわかる 紙パックリサイクルほんとはなし」発行	●改正容器包装リサイクル法見直し審議終了
2017年	●都営バス広告を実施(「牛乳パックン」バス) ★冊子「大人も子どもも 牛乳パックで作る小物リサイクル工作室」発行	
2018年	●燃やせるごみ専用袋の外装に広告掲載(町田市) ●AR(拡張現実)を利用した啓発実施	
2019年	★欧州視察(サーキュラーエコノミーとEUにおける紙パックリサイクルの実態調査) ●容環協新規イベントへの出展(川崎市エコ暮らしフェア、八千代どーんと祭) ●紙パック組成分析調査(富士市) ●燃やせるごみ専用袋の外装に広告掲載(三鷹市) ★冊子「学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き」発行 ■「環の縁結びフォーラム-紙パックリサイクル循環システムの現状と今後-」 ■商業施設でワークショップ開催「ライフハブノ里店(東大阪市)」	
2020年	★マシンガンズ 滝沢秀一氏(環境省サステナビリティ広報大使)による啓発動画作成 ●エコプロ(エコスタディール)Online、エコライフ・フェア2020 Onlineに出展 ●リサイクル促進意見交換会をリモートで開催	
2021年	●「プラン2025飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装3Rのための自主行動計画2025を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★川崎市環境局・市民団体との協働で、市内の学乳パックリサイクル推進活動を本格的に開始 ★地域環境ファシリテーターとのネットワーク強化を目的とした「ありたい姿セッション」を開催 ●燃やせるごみ専用袋の外装に広告掲載(八王子市) ●紙パックのラミネート樹脂リサイクルの高度化に向けた取組みを開始	●プラスチック資源循環促進法が成立(2022年4月より施行)
2022年	●紙パックで地球にやさしくNOTEBOOK、地球にやさしく紙パックのリサイクル冊子発行 ●WebやSNSを活用したタイアップ広告を開始 ●燃やせるごみ専用袋に紙パックリサイクルの啓発広告を掲載(八王子市、三鷹市、羽村市) ★事業領域における紙パック回収率の向上に向けてSRAジャパンと連携した取組みを開始	
2023年	●大人用冊子「知ってほしい 紙パックとリサイクル」発行 ●関東圏と関西圏で紙パックリサイクルについてのインターネット意識調査を実施 ●SDGs Week EXPO 2023/エコプロ2023出展、イベントを再開 ★北米視察(採種園、森林管理施設、原紙メーカー、リサイクル施設など) ★SRAジャパンと連携した事業領域における紙パック回収の取組みを強化(関東、中部、関西地域) ★コロナの分類変更に伴って自治体や他団体と連携した取組みやイベントを再開・強化(千代田区、中央区、世田谷区、目黒区、武蔵野市、狛江市、川崎市、野田市、柏原市、他) ★第23回「牛乳紙パックで「遊ぶ学ぶ」コンクール」協賛(2011年より継続)	



あゆみ／容環協の発行物

*1 紙パックリサイクル促進地域会議の開催地(1998年～2023年)

北海道、函館、青森、岩手、宮城、福島、山形、新潟、長野、群馬、さいたま、茨城、東京都(北部)(東部)(23区)、昭島、神奈川、横浜、静岡、岐阜、石川、福井、三重、桑名、愛知、滋賀、大阪(京阪神)、京都、兵庫(神戸・阪神)、明石、島根、岡山、広島、徳島、愛媛、高知、福岡、北九州、春日、大分、佐賀、熊本、沖縄

*2 紙パックリサイクル講習会の開催地(2004年～2023年)

札幌市、旭川市、筑西市、さいたま市、朝霞市、野田市、富士見市、(東京都)中央区、渋谷区、品川区、江東区、中野区、北区、荒川区、西東京市、狛江市、武蔵野市、横浜市、川崎市、相模原市、厚木市、(千葉県)横芝光町、甲府市、大月市、(静岡県)清水町、春日井市、日進市、大阪市、西宮市、松山市、(徳島県)板野町、高知市、久留米市、別府市、那覇市

*3 牛乳パックリサイクル出前授業の実施(2007年～2012年以降の実施校を記載)

青森市立泉川小、仙台市立中山小、水戸市立赤塚小、筑西市立上野小、茂木町立茂木小、芳賀町立芳賀南小、野木町立友沼小、川口市立戸塚南小、越谷市立大袋東小、三郷市立丹後小、市原市立ちはら台桜小、野田市立二川小、墨田区立中和小、大田区立都南小、江戸川区立篠崎第二小、町田市立小山小、青梅市立今井小、多摩市立諏訪小、横浜市立荏子田小、同 綱島小、同 日枝小、同 上星川小、同 瀬谷第二小、同 矢向小、川崎市立東小倉小、同 川崎高校附属中、同 平間小、同 虹ヶ丘小、同 小田小、同 南河原小、同 鷺沼小、同 宮崎小、同 下河原小、同 西御幸小、同 東橋中、同 向丘小、同 東門前小、大月市学童クラブなのはな、南アルプス市立白根百田小、富山市立新庄小、神戸町立神戸小、静岡市立東源台小、岡崎市立山中小、尾張旭市立本地原小、日進市立東小、弥富市立白鳥小、大阪市立長吉南小、堺市立熊野小、貝塚市立中央小、島本町立第二小、王寺町立王寺北小、新見市立本郷小、広島市立井口台小、同 牛田新町小、同 仁保小、同 大町小、同 八幡東小、同 河内小、福山市立引野小、三豊市立松崎小、北九州市立天籟寺小、同 星ヶ丘小、同 折尾東小、佐賀市立若楠小、吉野ヶ里町立東脊振小

DVD「牛乳パック探検隊」

小学生に、牛乳パックのリサイクルと環境についてわかりやすく理解してもらうDVDです。①牛乳パックのふるさと、②森林の管理、③木から牛乳パックへ、④牛乳パックの特徴、⑤飲んだらリサイクル、の5つの内容を、牛乳パックが説明してくれます。子供たちに親しみを持って見てもらえる内容になっていますので、環境について考え、自ら行動することの大切さを学ぶ教材としてご活用ください。お申込みいただいた学校・団体には無料配布しています。



牛乳パック探検隊DVD

マシンガンズ DVD「牛乳パックリサイクルしないともったいない」

マシンガンズによる牛乳パックのリサイクルをゆるく解説したDVDです。語りはゆるくしていますが、内容はいたってまじめに作ってありますので、子供から大人まで楽しんで見ながらリサイクルを学ぶことができるDVDになっています。「もったいない!牛乳パックは捨てないで」と「やってみよ〜牛乳パックのリサイクル」の2部構成になっていて、それぞれ約8分の動画です。このDVDもお申込みいただければ無料配布しています。



マシンガンズDVD「牛乳パックリサイクルしないともったいない」

地球にやさしく紙パックのリサイクル、紙パックで地球にやさしく NOTEBOOK

資源ってなんだろう? どうしてリサイクルするのか? どんないいことがあるの? 紙パックのふるさととは? といった疑問、リサイクルのルール、紙パックの開き方をわかりやすく解説しています。地球にやさしく、地球温暖化防止に貢献できる紙パックのリサイクルを始めてみませんか?小学生向けには、学習帳としてもお役立ていただける「紙パックで地球にやさしく NOTEBOOK」があります。表紙には紙パックを主体とした再生紙を使用しています。どちらもお申込みいただければ配布しています。



地球にやさしく紙パックのリサイクル



紙パックで地球にやさしく NOTEBOOK

知ってほしい紙パックとリサイクル

貴重な資源の紙パック、紙だからいいこと、循環型社会のために、紙パックのいいこと、紙パックのリサイクルの現状、分別のルールについてわかりやすく解説した大人向け冊子です。紙パックリサイクルの啓発活動にもお使いいただけます。お申込みいただければ配布しています。



知ってほしい紙パックとリサイクル

学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き

学校給食の牛乳パックのリサイクルで困っていませんか。リサイクルで困っている先生のお手伝いをするために、リサイクルの手引きを作成しました。実際にリサイクルを行っている学校の事例が紹介されていて、リサイクルするためのヒントが載っています。なぜ紙パックのリサイクルが必要なのかわかります。また、飲み終わった牛乳パックの開け方もわかりやすく図で示してあります。この手引きは、ホームページからダウンロードして簡単にご利用できます。



学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き

会員一覧

団体会員(3団体)

一般社団法人 日本乳業協会
一般社団法人 Jミルク
全国乳業協同組合連合会

飲料用紙容器メーカー(7社)

日本製紙(株)
日本テトラパック(株)
石塚王子ペーパーパッカーズ(株)
大日本印刷(株)
TOPPAN(株)
北越パッケージ(株)
東京製紙(株)

乳業メーカー(112社)

【北海道】
よつ葉乳業(株)
サツラク農業協同組合
北海道保証牛乳(株)
新札幌乳業(株)
くみあい乳業(株)
北海道乳業(株)
(株)函館酪農公社
(株)北海道酪農公社
(株)町村農場
倉島乳業(株)
(株)豊富牛乳公社

【青森県】
萩原乳業(株)

【岩手県】
不二家乳業(株)

【宮城県】
東北森永乳業(株)
山田乳業(株)
みちのくミルク(株)

【山形県】
(有)後藤牧場
奥羽乳業協同組合

【福島県】
酪王協同乳業(株)
会津中央乳業(株)
松永牛乳(株)

【茨城県】
茨城乳業(株)
トモエ乳業(株)
いばらく乳業(株)
関東乳業(株)

【栃木県】
針谷乳業(株)
栃木明治牛乳(株)
栃木乳業(株)
ホウライ(株)千本松牧場本部

【群馬県】
榛名酪農協同組合連合会
東毛酪農協同組合
群馬明治(株)

【埼玉県】
森乳業(株)
西武酪農乳業(株)
埼玉酪農協同組合
大沢牛乳(株)

【千葉県】
古谷乳業(株)
千葉北部酪農協同組合
千葉酪農協同組合

【東京都】
雪印メグミルク(株)
(株)明治
森永乳業(株)
協同乳業(株)
小岩井乳業(株)
コーシン乳業(株)

【神奈川県】
タカナシ乳業(株)
横浜森永乳業(株)
近藤乳業(株)
足柄乳業(株)
(株)協同牛乳

【長野県】
八ヶ岳乳業(株)
(有)松田乳業

【新潟県】
新潟県農協乳業(株)
原田乳業(株)
(株)塚田牛乳
(株)佐渡乳業

【富山県】
となみ乳業協業組合
黒東乳業

【石川県】
アイ・ミルク北陸(株)

【岐阜県】
飛騨酪農協同組合
(有)牧成舎
関牛乳(株)
美濃酪農協同組合連合会

【静岡県】

いなさ酪農協同組合
函南東部酪農協同組合
東海明治(株)
朝霧乳業(株)

【愛知県】

中央製乳(株)
常滑牛乳(資)

【三重県】

大内山酪農協同組合

【京都府】

平林乳業(株)
京都酪農協同組合畜産酪農センター

【大阪府】

泉南乳業(株)
日本酪農協同(株)
ビタミン乳業(株)
(株)いかるが牛乳
江崎グリコ(株)

【兵庫県】

丹波乳業(株)
淡路島牛乳(株)

【鳥取県】

大山乳業協同組合

【島根県】

木次乳業(有)

【岡山県】

オハヨー乳業(株)
梶原乳業(株)
蒜山酪農協同組合

【広島県】

山陽乳業(株)
広島協同乳業(株)
チチヤス(株)

【山口県】

やまぐち酪農協業(株)
防府酪農協同組合

【香川県】

四国明治(株)

【愛媛県】

四国乳業(株)

【高知県】

ひまわり乳業(株)

(2023年11月末現在)

【福岡県】

ニシラク乳業(株)
オーム乳業(株)
永利牛乳(株)

【長崎県】

島原地方酪農協同組合

賛助会員(13社)

王子エコマテリアル(株)
西日本衛材(株)
(株)日誠産業
日本製紙クレシア(株)
大和板紙(株)
コアレックス信栄(株)
丸富製紙(株)
(株)山田洋治商店
(株)クレスコ
ウェストロックアジア(株)
マスコー製紙(株)
ストウラ エンソ ジャパン(株)
日本ダイナウェーブパッケージング



乳業メーカーと紙容器メーカーが協力し、牛乳などの紙容器にかかわるリサイクルと環境保全に取り組んでいます。

全国牛乳容器環境協議会

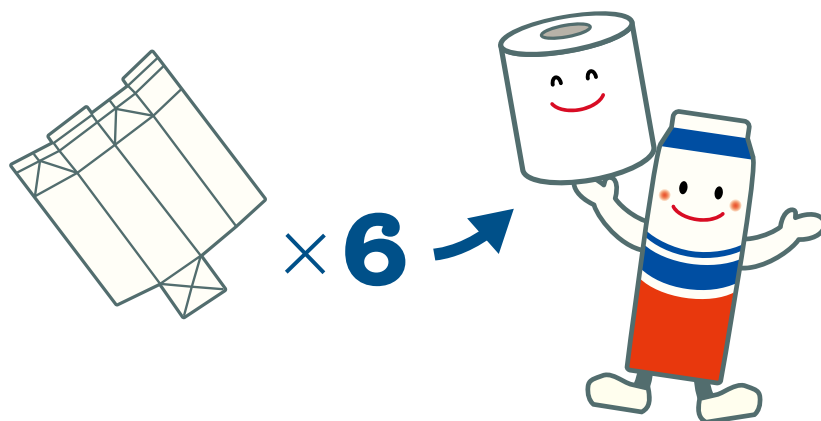
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-14-19 (乳業会館)

TEL 03-3264-3903 FAX 03-3261-9176

<https://www.yokankyo.jp>



飲み終わったら 洗って 開いて 乾かして
リサイクルありがとう



1000mlの紙パック6枚は
トイレットペーパー1個分のパルプに相当します



紙パックの回収にご協力頂いている教育機関、行政機関、団体、企業のみなさまへ

学校、公共施設、福祉施設、店頭などへの回収ボックス設置にご協力頂くと共に、安定的、定期的に回収できるシステムづくりをお願い申し上げます。回収した紙パックの引渡先などが判らない時には、地元自治体の行政窓口にお問い合わせ下さい。その他ご不明な点があれば、当協議会までご連絡下さい。

お問い合わせ先 | 全国牛乳容器環境協議会
Email : info@yokankyo.jp